

ハインライン『未来史シリーズ ③動乱2100』のあらすじ

takaidos

③動乱2100

1953年発行。これで未来史、終了。

『もしこのまま続けば』

1940年。

合衆国陸軍。

アメリカのニュー・エルサレムには現人身予言者が住む王宮がある。

アメリカがカルト教団支配を受けている未来。

科学的には1950年代に考えられていた近未来。

王宮警備隊の主人公は現人身予言者に捧げられそうになった修道女と知り合い、また反体制派のメンバーと知り合うに及んでカバラ党に入党し政府転覆を図る。

国内の3人に2人が信者という状況でどうやって1万人足らずのカバラ党員が、核攻撃にも耐えられる王宮にこもる10万人の軍隊を持つ予言者を捕まえることが出来るか。

暗号や通信・連絡方法、秘匿、心理、印象操作など集団を動かす理論がストーリーに展開される。

戦争自体はコストが低いもので、革命後どうやって民衆の支持を維持出来るかまで持って行くことが重要。

前二冊と毛色の違う作品だった。

<登場人物>

ジョン・ライル:新米の王宮警備隊。主の天使隊。ウェストポイント出身。

アブソロム:ジョンの叔父。

シスター・ジュディス:修道女。ニューヨーク、オルバニー出身。

ゼバティア・ジョーンズ:ゼブ。ジョンの先輩。

スノッティ・ファセット:カバル党に潜入していたスパイ。

シスター・マグダーリン:修道女。実はカバル党員。マギー。アンドリュース。二等軍曹。

ピーター・ヴァン・アイク:大尉。フェンシングが上手い。カバル党員。支部隊長。

ティモシー・クライス:名誉大尉。カバル党員。ティム。

カバル党:アメリカ西海岸で勢力を持つ異教集団。

タイラー:カバル党員。

ベアポー:スコットランド人とチェロキー人の混血。カバル党員。

予言者:初代はネヘミア・スカダー。

異端審問長官:

ハクスレー:カバラ党の将軍。元・応用奇蹟学主任教官。

ミリアム:金髪。ゼブ、マギーたちと一緒に泳ぐ。

ノヴァーク:大佐。心理学部長。ゼブの上司。

ペノイヤー:空将。ジョンの上司。

<あらすじ>

ジョン・ライルは予言者の王宮を守る警備隊に入った。

そこで修道女ジュディスと会う。

ジュディスはくじで選ばれて予言者のもとを訪れるが、予言者の行為で気を失う。

ジョンはジュディスを助けたいと思う。

そこに友人ゼブが現れ、修道女マギーやピーターたちに誘われ、反予言者勢力のカバラ党に入隊し、なんとか催眠拷問を受けていたジュディスを救出することが出来る。

ジョンは異端審問にかけられるがなんとか凌ぎ、気付くとカバラ党のアジトで休まされていた。ゼブもマギー逃げて来ていて無事だった。

ピーターは任務としてジョンをセールスマン・アダム・リーヴスに変装させて、暗号を運ばせる。

空港で待っている間にチェックが厳しくなり、血液型でリーヴスで無いことがばれたジョンはジェット機奪って逃走する。

ハワイへの自動操縦に切り替えてユタ州上空でパラシュート降下し、ヒッチハイクしたり空中自動車を奪って、仲間が牧師をしている教会へ駆け込む。

そしようやくアリゾナ州の地下要塞に辿り着く。

そこにはかつての恩師ハクスレーが将軍としていて。ジョンは大尉へと昇進、個人的副官となる。

メキシコにいるジュディスとは手紙でやりとりできるが、途中で検閲・添削されて十分に想いを伝え会えない。

そこにゼブやマギーも合流する。

ゼブは宗教による信徒の洗脳方法や印象操作についてジョンに話し、そのうち「自分は無神論者で、初代予言者で不信心なものたちを宮殿から追い出す」という謎の言葉を口にする。

ゼブとマギーはジョンとだれかもう一人の女性を連れてピクニックに出た。

地下要塞は四方八方に洞窟張り巡らされていて国境跨いでメキシコにも通じている。

ゼブ、マギー、ミリアム、ジョンはある日池に行き、裸になって泳ぐ。

マギーはジョンに自分とゼブ支配型だから結婚しないという。

ノヴァークにジュディスの別れ手紙を見せられたジョンは、マギーに慰められ結婚する。

いよいよ王宮攻撃の日が訪れる、反乱軍は放送塔をジャックし一斉蜂起を呼びかける。

海外からも支援軍が駆け付け、モルモン軍、カソリック軍、ヨシュア軍が参戦し、王宮の予言者を生きたまま捕まえるために戦車で突撃する。

『疎外地』

1940年。

デイヴィッド・マッキンノン:直情径行気味な主人公。人を殴って裁判になり、心理療法で強制的に気持ちを落ち着けることより、疎外地に生きることを選んで自ら門を出る。

門の外には3つの世界があった。

ニューアメリカ、自由州、天使たちの地域。

ニューアメリカは犯罪者組合の地域、天使たちは『もしこのまま続けば』で合衆国に敗れたカルト独裁国家の信者たちで、自由州は自由といっても一番強い勢力の独裁体制だった。

デイブはニューアメリカへの入国の時にジョウとブラッキーに理不尽にも荷物を半分奪われ、なおかつ公務執行妨害で裁判にかけられ密輸業者としてすべて没収、罰金と懲役刑を科される。

牢獄でフェイダー・マギーという囚人と会いいっしょに脱獄してマザー・ジョンストンの地下酒場に逃げ込む。

そこへ警察がやって来て、自由州と手を組んで合衆国に戦争を仕掛けるとして酒場にいた人間はほとんど徴兵されてしまう。

フェイダー・マギーは門を戻って合衆国に戻ろうとするが、防御壁で傷ついて帰ってくる。

マザー・ジョンストンに一時的に覚醒する薬をもらってマギーはドクターの所に行こうとするが、デイブもいっしょに行く。

そこでニューアメリカで生まれて育った少女パースフォン15歳と会う。

パースフォンは合衆国に戦争を仕掛ける計画を聞き、門の向こうに行って合衆国に知らせようとする。

デイブも少女認められたい一心で防御壁に向かう。

しかし溺れて捕獲される。

そこで何度も疎外地の陰謀の話をする。

そこへランデル大尉が入ってくる。

彼はなんとフェイダー・マギーだった。

秘密情報部のスパイだったのだ。

そしてデイブにはもう心理療法は不要だという。

合衆国では法に従わない者は心理を調整するか疎外地への追放の2択があった。

外面のいい父親の独裁下で培われたデイブの性格、自身のごとは棚に上げて他人ばかりを批判する姿勢がもとで、合衆国を出ざるを得なかったデイブだったが、合衆国に従わない疎外地で自身を見つめ直して合衆国に戻るようになった。

『不資格』

1939年。

アンドリュー・ジャクソン・リビィ:計算の得意な若者。まだ22歳以下。

ルナ・シティー住んでいた若者たちが小惑星88に基地を作りエンジンを付けて、地球の軌道に移動させる話。

リビィが宇宙船の艦長たちに天才と認められる。

リビィは正規の教育はまだ受けていなかったが考え方を聞くと立ち所に計算してしまう。

このリビィは『メトセラ』や『愛に時間を』でも登場する。

ラザルス・ロングが図書館で出会った青年。